

本科 0 期 2 月度

解答

Z 会東大進学教室

選抜東大英語

東大英語



4章 総合問題4

問題

【1】

解答

(1) ウ (2) ㉔ (3) d (4) d

解説

(1) 要旨をつかむ

この問題文は10の段落から成っている。最初のステップは、第1段落を分析することである。

導入部で予想できるパターンは「既知の事実—新しい事実」という展開である。よく見られるのは、トランジション・マーカー〔つなぎ表現〕を使って、既知の情報を背景として述べた最初の部分と、文章の主題である新しい情報を紹介した2番目の部分とを対比させるパターンだ。一般的にその際のマーカーは、but, however, actually, または in fact, である。しかし、そのようなマーカーはここでは使われていない。「既知の事実—新しい事実」という関係は、「過去の事実—新しい事実」という形をとることもよくある〔変化や発見が起こっている分野では特にそうである〕ので、時を示す表現も鍵になることも多い。本問の場合、But now が主題を導入する表現だが、多くの場合とは違って第1段落の終わりにはない。

ℓ. 14～16 But now waste management is being transferred to regular private companies, and the jobs of the informal workers may be in danger. (だが、今、廃棄物の取り扱いが正規の民間企業に移管されつつある。だから、非公式に働く人たちの仕事は危機にあるかもしれない。)

ℓ. 11 に, until recently (最近まで) という、時間を表す表現がもう一つあり、現状、すなわち、これまでどんな状況であったかが紹介されている点に注意したい。この情報は、ℓ. 14～16 に述べられている主題へのつなぎとなっている。

(2) ディスコース・マーカーと指示(語)の役割を理解する

最近の多くの参考書に述べられていることとは異なり、ディスコース・マーカーに注意することは、東大入試に合格する鍵にはならない。しかし、その意味と役割を理解しておく必要はある。(1)の問いでは、第4段落の正しい位置にセンテンスを挿入しなければならない。この問いはディスコース・マーカーに基づいたものではない。1つ目のセンテンスは一連のディスコース・マーカー (first ... second ... finally) を含んでいるが、それらは答えには結びつかない。

正解はウである。この問いは、category (部門の人間) という語が英語ではなくヒンディー語の名前を指しているなので、解きにくい。

(3) 要点を見逃さない

第5段落で、受験者は不適切なセンテンスを1つ削除しなければならない。正解は㉔で

ある。この例はこの段落で述べられている要点を理解するのに重要ではないからだ。この段落は政府の規制が私的労働者の給与や労働環境を改善するかどうかを問題にしている。あるタイプの労働者の平均的な給与は何も明確にはしない。他の労働者がどれだけ稼いでいるかわからないからである。

(4) 最後の4つの段落を正しい順序に並び替える

最も難しい設問である。受験者は、恣意的に並べられた4つの段落を比較しながら、その前の文章とも比べなければならないからだ。ここでは、first, second, third のような手がかりとなる便利なディスコース・マーカーもない。

正解を導くためには、筆者が言いたいことを明確に把握すると同時に、文章に一貫性がある時にはどのような言語的特徴が表れるかを理解する必要がある。本問の場合は、「指示(語)」と単語同士の関係(「語彙的一貫性」)が最も重要だ。

(iv) の段落が最初に来なければならない。直前の段落とは Something like that (そのようなこと) という表現でつながっている。それは、免許を発行することによって特権的集団が生まれることを指している。

次に続くのは、(ii) の段落である。(iv) は州境を越えて原料を運ぶための免許について述べられている。(ii) ではリサイクルの話題に戻り、「対立」の問題を導入している。

その次に来るのは、(i) の段落である。前の段落とのつなぎの役割をしているのは、Another source of conflict (対立を生むもう1つの原因) という表現である。(i) は最後に、ゴミ処理事業が民間のゴミ処理会社に移行される傾向について述べている。(iii) の段落ではこの展開を受けて、その傾向が続くとどのようなことが起こるかを論じている。

(5) 表題を選ぶ

この問いは文章全体の趣旨とかかわっている。本文全体の趣旨は、廃棄物処理の複雑な非公式の制度が民間産業と政府の両方との競争に直面するということである。

a 「新たな仕事を見つける非公式労働者」これに関しては文章中に述べられていない。

b 「インドにおけるリサイクルの重要性」ほのめかされているかもしれないが、この文章の趣旨ではない。

c 「悪化しつつあるスワラン公園の汚染」的はずれである。

d 「競合する廃棄物取扱システム」正解。

e 「政府の規制に対抗するウェストデリー」これに関しては文章中に述べられていない。

全訳

ニューデリーの美しい芝生から遠く離れたところに、ウェストデリーのスワラン公園工業地域がある。公園には至る所にプラスチックがある。それは地面を覆い、風に吹かれ、分別され、溶かされ、細かく切り刻まれる。屈強な男たちの手で積んだり下ろされたりする大きな袋を運ぶ大型ダンプが出たり入ったりする一方で、別の男たちが、部外者に理解できない特殊な言葉を使って、込み入った取引をしている。

スワラン公園はアジア最大のプラスチックのリサイクル市場である。4平方キロメートルの土地には、プラスチックをうずたかく積み上げた、何百もの小さな青空倉庫がある。商売は昼夜なしに行われ、プラスチックは零細業者から買い取られ、多くのリサイクル工場へ引き渡される。

インドでは、廃棄物の収集とリサイクルと処分は、政府機関と非公式団体と民間企業によって行われている。最近まで、すべての固形廃棄物の収集とリサイクルと処分を、政府機関だけが行うことになっていたが、政府の機関は能率が悪いことが多い。その結果、例えばニューデリーでは、ほとんどすべてのリサイクルが——スワラン公園でのように——公認されていない団体の手で非公式に処理されてきた。だが、今、廃棄物の取り扱いが正規の民間企業に移管されつつある。だから、非公式に働く人たちの仕事は危機にあるかもしれない。

廃棄物取り扱い工程には、まず、通り、家庭、オフィス、工場からの回収があり、次に分別があって、そこで素材が分けられる。そして、最後にリサイクルそのものがある。デリーでは廃棄物の収集は昔から、フェリワラとビネワラとカテワラとティアワラからなる非公式のネットワークの手で行われてきた。それぞれの部門の仕事は決まっている。フェリワラについては、市内のあちこちで大きなビニール袋を持ち歩いているのを、よく目にする。彼らの仕事は、通りで、使えるマアルを探すことである。紙であれ、プラスチックであれ、ガラスであれ、金属であれ、何らかの価値あるものは、何でもマアルである。ビネワラは、特定の地域に置かれた街のごみ箱だけからマアルを拾い出し、カテワラはオフィスの廃棄物だけを収集する。ティアワラはオフィスや家庭からマアルを買い取るが、その素材がずっと質がよいので、彼らはたいいていそれにもっと高い値段を請求することができる。廃棄物は収集された後、40以上の種類に分別される。その分類作業が、実際に、廃棄物の価値を高め、リサイクルしやすくなる。

④リサイクルに基づいたビジネスモデルを伴う、この非公式な経済活動は、この都市の大いなる役に立っているように見える。⑤しかしながら、非公式な廃棄物収集はおそらく合法でさえなく、そのサービスは政府から認可をほとんど得ていない。⑥非公式労働者の中には、この産業が政府からもっと強い権限のある認可をもらえれば、その結果彼らの安い日給が上がると感じている者もいる。⑦政府の認可を支持する人たちは、それが、不潔で危険なこともある彼らの労働環境を改善してくれるだろうと期待している。

しかしながら、政府の認可はそれなりの課題ももたらすだろう。この非公式な産業が成功している大きな理由の1つは、その低い生産コストと柔軟な基準だった——その柔軟性は、もし政府の規制が機能し始めると失われるだろう。政府の認可は保護を最も必要とする人たちに恩恵をもたらすと思えない。というのも、免許制は単に免許があるというだけで多額の金を稼ぐ特権グループを作り出すだけかもしれないからだ。

(iv) デリー市内の汚染を発生させている事業すべての閉鎖を命じた2000年の最高裁判決の結果、そのようなことが起きた。この決定の結果、いくつかの工場が、隣接するハリヤナ州へ移転した。だが、いかなる原料も、州境を越えて運搬するのは、販売業の免許がなくてはできなかったのだ。この免許を持っていた業者はごく少数で、その結果、原材料を州境を越えて運ぶだけで大儲けする業者が台頭した。

(ii) 廃棄物収集の場合、デリーの民間の廃棄物取扱業社には重量に基づいて賃金が支払われる。このことが、民間企業と、現存する非公式な収集ネットワークの利害を、真っ向から衝突させることになる。というのも、非公式の収集人が1キロの廃棄物を集めれば、民間企業がそうでなければ金を払ってもらえるはずの廃棄物が1キロ減ることを意味するからだ。

(i) 利害の衝突を生むもう1つの原因は、すべての都市廃棄物を複雑なルールに従って

分別することを求める、新たな規制からくる。これらのルールは非公式の処理業者には守るのが難しい。だから多くの近隣地域が廃棄物の収集と分別を、民間の廃棄物処理業社に引き渡しつつある。

(iii) もし大企業が廃棄物の取り扱いにさらに関わってくれば、現存する非公式な経済活動は危機に陥るだろう。そうなれば、民間企業はすぐに、分別場、倉庫、そして最終的にはリサイクル工場を建てるかもしれない。最後には、彼らは非公式な収集人や運搬人や売買人を失業させるかもしれない、デリーの生活のユニークで興味深い部分である、スワラン公園の巨大なりサイクルシステムも、もはや存在しなくなるだろう。

<不要な一文>

- ④ 現在のところ、平均的なフェリワラの1日の稼ぎは約70ルピー、日本円にして約180円である。

【2】

解答

「全訳」下線部参照。

全訳

正しい平衡感覚〔物事の軽重を判断する能力〕がきちんと備わっていれば、迷信を信じる余地はなくなるのである。ある男が「私が乗った船は1度も難破したことはない。」と言って不安になり、まじないのために木に触る。なぜ彼は不安なのか。①彼には次のような記事が目の前に浮かんでいるのだ。「死亡者の1人に某氏がいた。驚くべき偶然の一致により、この某氏は、ほんの数日前に、自分の乗った船は一度も難破したことはない、と言っていたのだ。次の船旅で自分の言葉がかくも悲劇的に裏切られようとは夢にも思っていなかったのである。」そんな記事を何度も読んだことがあるという考えが、ふと彼の心に浮かぶ。確信は持てないが読んだことがあるかもしれない。しかし次のような記事を読んだことがないことは確かである。「死亡者の1人に某氏がいた。驚くべき偶然の一致により、この某氏は自分の乗った船はまだ難破したことがないとは、一度も言ったことがなかった。」しかしそういった小記事なら、真実を伝えているものとして、何千回となく書かれていた可能性があろう。②物事の軽重をきちんと判断する能力があれば、ある事例の一面しか記録されない場合には、その一面が不当に重要性を持ってしまうことはわかるであろう。実のところ、運命の女神はわざわざ人をアッとさせるようなことをしたりはしないのだ。人は誰でも、生殺与奪の力を手中に持っているとするれば、何か気のきいた、感動的な結果を仕組むのは疑いないだろう。塩をこぼして平気でいる男であれば、次の週に死海で水死させてしまうとか、5月に結婚した夫婦を翌年の5月に2人とも同時に絶命させるとかである。③しかし運命の女神が、我々なら考え抜くような、こういった、気の利いたことをすべて悩んで考え出すことはできないのだ。運命の女神は堅実に、平凡に、せっせと仕事を続け、そしてよくある偶然の法則を利用することによって、時折、アッと驚くような非現実的なことを成し遂げるのである。迷信は、報道されるのは偶然に起きる劇的な事件だけであるという事実のおかげで栄えるのである。

注

- ℓ. 1 ◇ a sense of proportion 「物事の軽重を判断する能力；バランス感覚」
 ◇ leave no room for ~ 「～の余地を残さない」
 ◇ superstition = [U] unreasonable belief in the supernatural; belief in magic, witchcraft, etc.; belief that objects, words, gestures, etc. affect people's lives
- ℓ. 2 ◇ shipwreck = [U] the destruction of a ship at sea by storm, collision, running on to rocks, etc.; [C] an instance of this
 ◇ and < , becoming nervous, > touches wood
 ○ becoming nervous : 分詞構文。
 ○ touch wood = touch something wooden to ward off bad luck : 日本語の「くわばら, くわばら」にあたる, 厄除けのまじない。手近の木 (木製の物) に触ったりする。
 (= knock (on) wood)
- ℓ. 3 ◇ paragraph = a separate note or piece of news in a newspaper **盲点**
 ◇ the deceased = the dead person or people < decease = die
 cf. disease = the contrary of health; illness; disorder
 ◇ Mr. — [blæŋk] 「某氏」 (= Mr. So and So) ダッシュは blank と発音する。
- ℓ. 4 ◇ coincidence = events or circumstances which happen or exist together by accident, but which seem to have some connection or relation
 ◇ only a few days before 「ほんの数日分だけ前」 → 「ほんの数日前」 only a few days は副詞相当句。
- ℓ. 5 ◇ Little did he think that … : 否定の副詞が文頭に出て文否定になると, 疑問文の語順になる。
 ○ little = never
 ◇ voyage = a journey by sea, or along a river, etc. (especially a long journey)
 ◇ would : 単純未来の現在形 will が, 時制の一致で過去形 would になったもの。
 ◇ falsify = prove to be false; disappoint < false = wrong
 ◇ so = ① to such an extent or degree, ② very
- ℓ. 6 ◇ It occurs to A that … 「…がAの心にふと思いだされる」
- ℓ. 7 ◇ Certainly : 前で可能性の低い Perhaps と言ったのを, 可能性の高い Certainly と言い直している。
- ℓ. 9 ◇ could have been written : 現在完了形の仮定法である仮定法過去完了形。
- ℓ. 10 ◇ thousands of times 「何千回となく」 (副詞句)
 ◇ would : 仮定法。条件は a sense of proportion。
 ◇ only : one を修飾。if only ではない。
- ℓ. 11 ◇ ever = [interrogative, negative, after if or as, with a comparative or superlative]
 at any time
 ◇ undue = excessive; improper ⇔ due = suitable; proper; fitting
 ◇ Fate 「運命, 宿命の女神」
 cf. the Fates = the three Greek goddesses who were thought to control human

life

◇ go out of *one's* way to *do* = make a special effort to *do*

Ex. He *went out of his way to help* me when I was in trouble.

(彼は私が困っている時、わざわざ手を貸してくれた。)

ℓ. 12 ◇ the power of life and death 「生殺与奪の力」

ℓ. 13 ◇ should : 仮定法過去。1 人称。

◇ no doubt = certainly

◇ arrange some remarkably $\left\{ \begin{array}{c} \text{bright} \\ \boxed{\text{and}} \\ \text{telling} \end{array} \right\}$ effects

○ arrange = make plans

○ telling = effective; impressive < tell = have a marked effect or a definite result

ℓ. 13 ◇ spilt < spill = let (liquid, etc.) run or fall; let escape or wasted

ℓ. 14 ◇ callously = in a callous manner < callous = having or showing no feeling for other's suffering; indifferent to the feeling or sufferings of others

◇ would : 仮定法。条件は前文の If you or I had the power of life and death。ℓ. 15 の would も同じ。

◇ the Dead Sea = a large lake between Israel and Jordan. The water in it is so salty that people can float in it easily. ※ the Dead Sea では人の体は浮くので、溺れて死ぬことは不可能。

ℓ. 15 ◇ expire = die

◇ simultaneously [səmɔltémiəsli] = at exactly the same moment < simultaneous = existing or happening at the same time

◇ the May following 「翌年の5月」意味が限定されるので、定冠詞がついている。

◇ think out = make (a plan, etc.) by thinking; think about thoroughly

ℓ. 16 ◇ clever = (of things done) showing ability or skill or keen thinking

◇ should : 仮定法。条件は we。

◇ It = Fate

◇ go about = be occupied or busy with

◇ solidly = without interruption

ℓ. 17 ◇ and < by the ordinary laws of chance > it achieves ~

◇ every now and then = from time to time; occasionally

ℓ. 18 ◇ startling = causing astonishment

◇ thrive = develop successfully

◇ that : 同格の名詞節を導く接続詞。

【3】

解答・解説

(1) d

- in 「～の後に」 *cf.* within = not more than (～以内に)
- (2) **b**
 後続く What he meant to say was, 'It is ages.' を参照。
 ○ ages = very long time
a それは長い。しかし僕はそれに耐えるに足る年齢である。
 ○ Yes, it is (very long)
b そう、あなたの言う通りである。しかしそれは長過ぎて僕には耐えられない。
c そう、それは余り長くはない。しかしあなたと私とは年齢が違う。
d そう、僕もそう思う。しかし父は年老い過ぎていて遠路をここまで来られない。
e そう、僕も理解している。しかしあなたはその年齢だからそう言えるのである。
a における yes と **b**～**e** における yes とでは意味が異なる。
- (3) トイレ
- (4) どうぞうまく行きますように。
 ○ go off = succeed
 ○ it は子供の学校における状況を指す。
- (5) **c**
 ○ fuss over = make a fuss of [over] 「騒ぎ立てる」
cf. fuss = expression of excitement, worry or enthusiasm 「騒ぎ」
- (6) **d**
 ○ sew [sóu] – sewed – sewn [sewed] *cf.* sewing-machine *n.*
c sigh = let out a deep breath with a sound 「ため息をつく」
e sue ～ = make a legal claim; prosecute 「～を告訴する」
- (7) **a** catastrophe (= great disaster)
 ○ *ℓ.* 21 an earthquake 以下を参照する。
b goodwill 「善意, 親善」
- (8) 当時にはありがたいとも思われなかったが
 この部分全体が1つの挿入句を成す。
 ○ although (it had) not (been) appreciated at the time
 ○ it = a life which now seemed Heaven
 ○ appreciate ～ = value highly; be thankful for
- (9) **d**
a ジェームズも彼の母親もその平野を車で走り抜けることにうんざりし、もし可能ならば停車したいと願った。
 ○ dreadfully *adv.* = extremely
 ○ be tired of = have had enough 「～に飽きている」
b ジェームズは、その学校に入る前に救急車で病院に連れて行かれるくらいなら、死んでしまった方がましであろうと思った。
 ○ might as well A as B 「BするくらいならAした方がましかもしれない」 A, Bは動詞の原形。

- c ストーン夫人が彼女の息子の注意を飛行場へ向けようとした時、彼女の言葉は彼に無視された。彼は、その学校の近くに飛行場があろうとは思ってもみなかった。
 ○ turn A to B = direct A to B 「Aを転じてBに対させる」
- d ジェームズはこれが自分の最後の瞬間だと感じた。なぜなら彼の必死の祈りにもかかわらず、その校舎が逃れ難く彼の前に立っているのが見えたから。
 ○ prayer = solemn request to God 「祈祷」
- e 他の少年たちと異なり、ジェームズはその学校の外観を嫌悪した。それが、彼にホテルよりもむしろ彼の自宅を思い起こさせたので、その分だけより一層。
 ○ disgusted = cause disgust in < disgust = a very strong dislike
 ○ all the more 「それだけ一層」 all は副詞で強意語。

全訳

ストーン夫人はその灰色の乗用車を運転して、所々に崩れ落ちた石壁が続く平野を走り抜けていた。彼女の息子が硬い表情で彼女の隣に座っていた。彼もその母親も不安で気分がすぐれなかった。彼女が何を言っても、彼は自信なさげに「うん、でも…」と答えるだけであった。

「お父様と私は3週間後に来ます。ジェニングス先生は、それまでは来ては行けないとおっしゃいました。そんなに長くはないでしょう。」

「うん、でも…」彼が言いたかったのは「とてつもなく長い。」であった。

時折、ストーン夫人はジェームズが生垣の陰で用を足せるように車を停めねばならなかった。彼は暖かい車内へ再び乗り込みながら、突然絶望的な気持ちになって「もし授業中にこれをしたくなったらどうなるだろう。」と言った。

「先生にお願いすれば、きっと行かせてくれます。」

「でも、もし行かせてくれなかったら？」

「行かせてくれるに決まっています。先生方はとても優しいのですから。」

「お父様はそうじゃないと言っていたよ。」

「お父様が子供の頃は学校は今のようではなかったのです。」ストーン夫人は神に祈っていた。「④どうぞうまく行きますように。この子が泣きませんように。」しかしジェームズは考えていた。「この車が衝突して、僕が死んだらいいのに。ううん、死ぬのではなく、重傷を負い、病院に救急車で運ばれ、大騒ぎされるといいのに。」過去数日間、トランクにものが詰め込まれ、名札が衣類に縫い付けられている間、彼は恐ろしい未知の世界へと運ばれて行く前に死んでしまいたいと思っていた。そして何度も自殺のことを考えていた。しかしそのうちに必ず、まだ数日、あるいは数時間は残っていると思い直した。その間に願って止まない大災害が起こるかもしれないだろう — 地震がああ学校を飲み込んで、ジェニングス家の者たちや教師たちを皆、死なせてくれるかもしれないだろう、と。

「見てごらん、空港ですよ。」とストーン夫人が言った。ジェームズは、それを見ようともせずにつぶやいた。「ということは、そこは近くにまで来ているに違いないな。」彼らがある角を曲がると、飛行機が1機、彼らの頭上を低く飛んで行った。そして灰色の堅牢な校舎が、運動場の広がりの方こうに立っているのが見えた。これがジェームズの最後の瞬間であった。13週間は永遠のように長く、④当時にはありがたいとも思われなかったが、今では天国の

ように見える生活を取り戻すまで待てそうになかった。彼の母は、その学校は、学校というよりも個人の住宅のようであると何度も彼に言ってきた。彼は今やそれが事実ではないことを知った。それは他の少年たちには彼らの自宅を思い起こさせたかも知れなかったが、ジェームズにとってはそれは明らかに公共の施設であった。と言うのも、遠くから見てさえ、それはホテルの持つ豪華な雰囲気欠いていたからである。彼は母親のツイード地の袖をつかみ、「車を停めて。」と言った。

注

- ℓ. 1 ◇ interlace = join together by weaving
◇ tumbledown = falling
- ℓ. 2 ◇ dread = great fear
- ℓ. 3 ◇ whatever = anything or everything that
- ℓ. 4 ◇ the earliest (that) we could (come)
- ℓ. 5 ◇ now は副詞で間投詞的用法。
- ℓ. 7 ◇ relieve *oneself* = empty the bladder or bowels
- ℓ. 8 ◇ hedge = a fence formed by bushes
◇ suppose = what will happen if 「もし～ならばどうなるだろうか」
- ℓ. 10 ◇ he will (let you go)
- ℓ. 13 ◇ they weren't (kind)
- ℓ. 16 ◇ ambulance = a vehicle for carrying sick or wounded people
- ℓ. 17 ◇ name-tapes (were) being sewn ~
- ℓ. 18 ◇ the terrible unknown 「恐ろしいまでに未知なるもの」 'the + 形容詞' で抽象名詞の代用の用法。単数扱い。
- ℓ. 19 ◇ had (several times) thought of ~
◇ in time = soon enough
- ℓ. 20 ◇ left : a few days, or even (a few) hours を修飾。
◇最初の which : 先行詞は a few days, or even hours
◇次の which : 先行詞は the catastrophe
- ℓ. 21 ◇ swallow up ~ = cause (something) to disappear
- ℓ. 23 ◇ murmur = say in a low voice
- ℓ. 26 ◇ too long to wait before ... : for ever の言い換え。
- ℓ. 27 ◇ resume ~ = take again
- ℓ. 29 ◇ might : 仮定法。other boys が条件。
- ℓ. 30 ◇ institution = the building in which the work of a society or organization is carried on
◇ at a distance = not too near
- ℓ. 31 ◇ clasp ~ = grasp; hold

【4】

解答

鳥の習性において、人間と異なる最も明白な点はたぶん、鳥はいくつかの非常に複雑なことを含めて、自分のしなければならないことはすべて、まったく教えてもらわなくてもできるといったところであろう。そもそも空を飛ぶということは、体のバランスをとったり、調整しながら飛行するという驚くべき複雑さにもかかわらず、習わずして鳥は身につけている営みなのである。子供の鳥が、親鳥がそばにいない時にはじめて飛んでみるということは、非常に多いのである。無論、習うより慣れろであって、練習することにより、最初に飛んだ時の若干のぎこちなさを磨き直すことになるのだが、我々人間がゴルフやテニスやフィギュアスケートを習得する場合とは違って、手の込んだ習い方は必要ではないのである。

注

- ℓ. 1 ◇ perhaps は通常、確信の度合いが低いことを示す語であるが、最上級の前で用いられる perhaps は控え目に表現することで逆に判断の正しさを強調する。

Ex. Tradition is *perhaps* the most basic concept of conservation.

(伝統は保守主義のおそらく最も基本的な概念だ。)

◇ way = respect; a particular aspect

◇ A differs from B in C 「AはCの点でBと異なる」

◇ men = people

- ℓ. 2 ◇ ① that they can do all ② that they have to do (① that = 名詞節を導く接続詞／
② that = 関係代名詞)

◇ quite = completely

◇ complicated = consisting of many connected elements; intricate

- ℓ. 3 ◇ Flying < , to start with, > is an activity

S

V

C

which

< , for all its astonishing complexity >

of { balance

and

aeronautical adjustment

comes (untaught) to birds.

準補語


- to start with = ① said when talking about the beginning of a situation, especially when it changes later; at the beginning ② said to emphasize the first of a list of facts or opinions you are stating; in the first place

○ its < flying

○ complexity = the condition of being complex < complex = complicated

- ℓ. 4 ○ aeronautical [ə'reɪnəʊ'tɪkl] = of or having to do with aeronautics < aeronautics = the study or practice of travel through the air

○ come = happen

- ℓ. 5 ◇ make a flight = fly
 ◇ out of sight = not to be seen; beyond the range of vision
- ℓ. 6 ◇ put a polish on ~ 「～の上に磨き粉を置く」 → 「～に磨きをかける」
 ○ polish =  substance used for polishing
 ◇ awkward = not graceful; having little skill
 ◇ performance : ℓ. 3 activity の言い換え。
 ◇ there is no elaborate learning needed as with ~ ≡ no elaborate learning is needed as with ~
 ○ この no は語修飾の文否定の働きなので, as は「～とは違って」と訳出するとよい。
 ○ elaborate *adj.* = very detailed and complicated; carefully prepared or finished
 ○ with = in the case of Ex. It's all right *with* me. (私は大丈夫です。)
- ℓ. 7 ◇ our learning of golf or tennis or figure-skating < we learn golf or tennis or figure-skating

【5】

解答

Summary Outline:

- A. The first naturalist to examine the island found only one tiny spider.
 ○ The first search for life on Rakata was made by a French group.
 ○ They arrived in May, 1884, only nine months after the eruption.
- B. Spiders and other small species can travel long distances on the wind.
 ○ The little spider reached the island by “ballooning.”
 ○ “Ballooning” is something that most species of spiders do at some time in their life cycles.
 ○ A spider climbs to some spot where it is exposed to the wind and lets out a thin strand of silk.
 ○ The strand catches the wind current and stretches out like the string on a kite.
 ○ When the wind is pulling hard enough on the strand, the spider lets go and flies off to a new home.
 ○ Even large spiders can sometimes float thousands of meters high and travel for hundreds of kilometers before coming back down to earth.
- C. Other larger species arrived by flying or swimming.
 ○ Most of the birds that eventually settled on Rakata flew there under their own power.
 ○ Bats also flew there.
 ○ Many of the larger winged insects, such as dragonflies and butterflies are also able to fly long distances across water.
 ○ Large lizards and snakes got there by swimming.
- D. Sometimes forest species cross water barriers by accident.

- Long distance swimmers are not common.
 - Many rain forest species will not cross a water barrier even when the nearest island is clearly visible.
 - Branches and even whole trees sometimes fall into rivers and are carried out to sea.
 - The whole community of creatures living in the tree may journey (travel) together to a new land.
- E. At first glance, the island now resembles the others in that area, but the ecosystem is not fully restored.
- Most of the early species died soon after arriving.
 - A hundred years after the explosion of Krakatau, the inhabitants included thirty species of land birds, nine bats, two types of rats, and nine reptiles.
 - There were also over six hundred species of invertebrates such as worms, spiders and insects.
 - There are still only two species of flightless mammals, both rats.

Script

CD 1 10 ~ 12

The first search for life on Rakata was made by a French group. Their ship arrived in May, 1884, only nine months after the eruption. The ship's naturalist wrote that in spite of his careful research, he was unable to find signs of animal life. "I only discovered one microscopic spider," he wrote, "— only one; this strange pioneer of the renovation was busy

5 spinning its web."

But how could a tiny wingless creature like a baby spider find its way to the island so quickly? The little spider reached the island by "ballooning." Ballooning is something that most species of spiders do at some time in their life cycles. A spider climbs to some spot where it is exposed to the wind and lets out a thin strand of silk. As the strand gets longer,

10 it catches the wind current and stretches out like the string of a kite. When the wind is pulling on the silk hard enough, the spider lets go of the leaf or branch where it is standing and flies off on a journey to a new home. Not only tiny babies such as the one found by the French naturalist, but also large spiders can sometimes float thousands of meters high and travel for hundreds of kilometers before coming back down to earth to make a new home.

15 The spider is only one of the many plants and small animal species that travel and relocate

on the wind. Most of the species that resettled Rakata came that way.

But other larger species arrived as well. Most of the birds that eventually settled on Rakata flew there under their own power. So did bats. Many of the larger winged insects, such as dragonflies and butterflies, are also able to fly across water for surprisingly long
20 distances. By 1899, large monitor lizards were observed on Rakata. They got there by swimming. The reticulated python, a huge snake that grows to up to eight meters, also swam there. Such long-distance swimmers are not so common, however. Many rain forest species will not cross a water barrier even when the nearest island is clearly visible. But sometimes they cross by accident. Branches and even whole trees sometimes fall into
25 rivers and are carried out to sea, especially during typhoons. In this way the whole community of creatures living in the tree may journey together to a new land.

Most of the early colonists died soon after arriving. But as vegetation increased and the forests began to grow, many species survived. A hundred years after the explosion of Krakatau, the inhabitants included thirty species of land birds, nine bats, two types of rats,
30 and nine reptiles, including the large monitor lizards. There were also over six hundred species of invertebrates such as worms, spiders, and insects. At first glance, the island now resembles the others in that area, but the ecosystem is not fully restored. For example, there are still only two species of flightless mammals, both rats. It will take more time before the restoration of the island is complete. (512 words)

全訳

ラカタにおける最初の生物探しは、フランスの一团によって行なわれた。彼らの船は1884年5月、噴火後わずか9カ月後に到着した。乗船していた博物学者は、念入りの調査にも関わらず、動物がいる兆候は見つけられなかったと書いている。彼は、「私は、顕微鏡でなければ見えないほど小さいクモを1匹発見しただけだった。たった1匹だけである。この奇妙な革新の第一人者は、巣を張るのに精を出していた」と書いた。

しかし、幼虫のクモのように羽のない極小の生物が、どうやってこんなにもすばやく島への道を見出すことができたのだろうか。この小さなクモは「バルーニング（空中漂流移動）」によって島に到着したのだ。バルーニングは、多くのクモの種が活着している間のある時点で行なうものである。クモは、風にさらされて、細いクモの糸を投げ出せるどこかの場所に登

る。糸は長くなっていくにしたがって、気流を捕らえ、風の糸のように伸びていく。風が十分に糸を引っ張っている時、クモは自分のいる葉や枝から身を離して新しい住まいへの旅へと飛び立つのである。フランス人の博物学者が見つけたような小さな幼虫のクモばかりでなく、大型のクモも何千メートルもの高さに浮かび、新しい巣を作るために地上に降りてくるまでに何百キロも旅することがある。クモは、風に乗って旅をし、移動する多くの植物や小型動物の種の1つにすぎない。ラカタに再び住みついた多くの種はこのようにしてやってきたのである。

しかし、その他のより大型の種もまた到着した。最終的にラカタに落ち着いた鳥の多くは、自力でそこまで飛んできた。コウモリもそうだった。トンボやチョウなど、より大型の羽のある昆虫も、驚くほどの長距離の海を飛んで渡ることができる。1899年までには、ラカタで大型のオオトカゲが観察された。それらは、泳いでそこまで来たのだった。最大8メートルまで成長する巨大なヘビであるアミメニシキヘビも泳いできた。けれども、このような長距離泳者は、それほどよく見られるわけではない。熱帯雨林にいる多くの種は、たとえ最も近くの島がはっきりと見えたとしても、水の境界を越えようとはしない。といっても、それらが偶然、海を渡ることがある。特に台風の時期に、枝や木まるまる一本さえもが川に落下し、海まで運ばれることがある。このようにして、木に生息している生物社会全体が、新しい土地まで共に移動する場合がある。

初期の外来動植物の大半は到着して間もなく死んでしまった。しかし、植生が増殖して森林が育ち始めるに従い、多くの種が生き延びるようになった。クラカタウ島の噴火の100年後には、生育動植物に、陸上の鳥30種、コウモリ9種、ネズミ2種、大型のトカゲなど爬虫類9種が含まれていた。ぜん虫、クモ、昆虫といった無脊椎動物は600種以上もいた。現在、一目見たところでは、この島はこの地域の他の島と変わらないが、生態系が完全に復元されたわけではない。たとえば飛ばない哺乳類はまだ2種類しかおらず、そのどちらもネズミである。この島の回復が完了するにはさらに時間がかかるだろう。

注

ℓ. 1 ◇ search (for, after) 「搜索；調査」特に組織的なものを言う。

ℓ. 2 ◇ naturalist 「動物〔植物〕研究家；博物学者」

ℓ. 4 ◇ microscopic 「顕微鏡でしか見えない；微小の」

◇ renovation 「修復；復興」

ℓ. 5 ◇ spin ～ 「〈クモ、カイコなどが糸を〉吐く」

ℓ. 7 ◇ ballooning 「空中漂流移動；バルーンング」

ℓ. 9 ◇ let out ～ 「～を外に出す」

◇ strand 「より糸」

ℓ. 10 ◇ wind current 「気流；吹送流」

◇ stretch out 「広がる；伸びる」 extend は同意語。

ℓ. 11 ◇ let go of ～ 「～を放す」

Ex. I can't *let go of* those horrible memories.

(それらの嫌な記憶から解放されない。)

ℓ. 15 ◇ relocate 「移転する；転居する」

- ℓ. 18 ◇ under *one's* own power 「自力で」
- ℓ. 20 ◇ monitor lizard 「オオトカゲ」
- ℓ. 21 ◇ reticulated python 「アミメニシキヘビ」 reticulated は「網目模様の」の意味。
- ℓ. 27 ◇ colonist 「外来動植物；入植者」
◇ vegetation 「植生；植物帯」
- ℓ. 29 ◇ inhabitant 「居住者；住民」
- ℓ. 30 ◇ reptile 「爬虫類動物」
- ℓ. 31 ◇ invertebrate 「無脊椎動物」
- ℓ. 33 ◇ flightless 「飛べない」
- ℓ. 34 ◇ restoration 「回復；復旧；修復」 < restore ～ 「～を元の状態に戻す」

添削課題

解答例

To transport themselves on the wind, spiders first climb to a high place such as a tree branch. Then they let out a strand of silk so it will be caught by the wind. The wind current pulls on the silk. When the pressure is strong enough, the spider lets go and flies in the wind to a new home. (60 words)

解説

This is essentially summary writing since the way spiders travel on the wind was described in the listening exercise.